

平成19年度 南加瀬こども文化センターの管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	財団法人かわさき市民活動センター
(2) 指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
(3) 業務の範囲	南加瀬こども文化センターの管理運営に関すること 南加瀬小学校・夢見ヶ崎小学校わくわくプラザの管理運営に関すること

2 管理運営（事業執行）に対する評価

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況		
施設の運営に関する職員体制に関すること	①人的能力の充実を図るため職員の児童厚生員資格取得を進めると共に、新規採用職員は業務に関する資格取得者から選考しました。 ②本部の職員体制については管理係長1名、区運営担当主査を3名配置して各館との連携強化を図りました。	職員の業務に関する資格の取得を進めたこと、また本部職員の充実によりかわさき市民活動センターが管理運営している他のこども文化センターとの連携を図ったことは評価できる。職員の研修については、スケールメリットを生かし、大規模な研修を実施し、また、指定管理施設の各区、施設単位での研修も実施することにより職員のスキルアップを図っていたことは評価できる。今後もこども文化センター及びわくわくプラザの職員配置が適切に行われるよう努めること。
施設の管理運営に対するニーズ等の把握に関すること	日常の活動の中で児童や利用者から、あるいは地域の方との接点の中でニーズを把握し、館運営に反映するように努めた。行事の後にアンケートを実施し、行事参加者からのニーズの掘り起こしをした。意見箱を受付と主に団体が使用している1Fの2箇所に設置し、より多くの意見や要望を聞けるようにした。運営協議会からの意見を館運営に反映した。	継続的に利用者や地域住民からの意見・要望等を聞きニーズの把握に努めていたことは評価できる。意見箱の活用等により積極的にニーズの把握に努めていたことは評価できる。
サービスの提供に関すること	地域における児童の「遊びの拠点」として、児童のニーズを捉えて魅力的な「遊び」がある館を目指し運営を実施する。地域における市民活動の拠点として、利用者ニーズに則した館運営を実施する。こども文化センターの地域における役割である「遊びを通じた児童の健全育成事業」と「市民活動の推進」を地域に向けて発信していく。	運営協議会やこども会議等を実施しサービスの提供を行っていた。また、ホームページの内容をより充実させていたことは評価できる。障害児については、障害児相談員を雇用し、必要に応じ職員の相談を行い障害児の対応を充実させていたことは評価できる。
事業の実施に関すること	児童の健全育成に絡めて、館の特徴を併せた事業を展開した。前年度に引き続き、「食育」にちなんで「食べ物づくり」に関わる行事及び野外活動を多く実施するように努めた。現代の児童は、ゲーム機やインターネットを利用したゲームなどによる遊びの機会が増えている。そのような環境の中で実体験を多く含む「食べ物づくり」や「野外活動」は児童の体験学習の機会として有効な要素が多いので継続していきたい。	行事については、食育や野外活動など、体験活動行事を実施に努めていた。今後も、ボランティアの活用を努めること。

個人情報の取扱に関すること	紙ベースの情報、デジタル媒体に載せた情報等に関する取り扱いについては「個人情報保護法」及び当財団の「個人情報保護方針」の理解を深めて、遵守する。職員会議において、具体的な取り組みを決めて、実施する。外部研修を取り入れる。	個人情報の取扱については、概ね問題なく処理されている。
施設の安全管理に関すること	毎日の清掃や点検により、危険箇所の確認・除去が出来たことによって、未然にケガを防止することができた。定期的に館内を巡回（15分毎）して、児童の様子を把握・声掛けを実施し、ケガの防止に努めた。閉館時の確認リストを作成し、担当者が施錠等の確認作業を確実にこなせるようにした。	毎日の清掃や始業時の点検を行い、安全性に努めている。また、夢見ヶ崎小学校わくわくプラザにセンサーライトを設置し、より安全性を高めていたことは評価できる。
(2) 利用状況		
①こども文化センター	延べ利用者数 23,166人 延べ団体利用数 4,724団体 （主な行事等） 映画会 縄跳び大会・お楽しみ会 （特色のある行事） 火起し隊	地域の状況に合わせた特色ある行事の実施している。また、地域との連携を図り行事を実施していることは評価できる。行事の実施に当たっては、具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。
②わくわくプラザ	1 南加瀬小学校わくわくプラザ 登録者数 222人 延べ利用者数 12,026人 （主な行事等） 工作 体操教室 （特色のある行事） 布ぞうり作り 2 夢見ヶ崎小学校わくわくプラザ 登録者数 190人 延べ利用者数 10,675人 （主な行事等） 工作 お楽しみ会 （特色のある行事） お正月遊び：福笑い	行事については、順調に実施されている。利用状況は具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導																																	
(3) 収支状況																																			
① 収支状況	<p style="text-align: right;">(単位：円)</p> <table> <tr> <td>収入</td> <td>指定管理料</td> <td>46,603,456</td> </tr> <tr> <td>支出</td> <td>人件費</td> <td>35,590,468</td> </tr> <tr> <td></td> <td>管理費</td> <td>2,848,861</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事務経費</td> <td>1,937,847</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他経費</td> <td>1,436,042</td> </tr> <tr> <td></td> <td>青少年事業資産取得支出</td> <td>909,090</td> </tr> <tr> <td></td> <td>減価償却引当資産取得支出</td> <td>40,492</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第1回精算に伴う返納金</td> <td>636,363</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第2回精算に伴う返納金</td> <td>3,000,000</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>46,399,163</td> </tr> <tr> <td></td> <td>差引</td> <td>204,293</td> </tr> </table>	収入	指定管理料	46,603,456	支出	人件費	35,590,468		管理費	2,848,861		事務経費	1,937,847		その他経費	1,436,042		青少年事業資産取得支出	909,090		減価償却引当資産取得支出	40,492		第1回精算に伴う返納金	636,363		第2回精算に伴う返納金	3,000,000		合計	46,399,163		差引	204,293	<p>事業実施後指定管理料の残額を戻入しており指定管理料の範囲内で事業の実施を行っている。今後は収支のバランスを考慮しつつ、事業をより充実させるため適切な経費の執行を図ること。</p>
収入	指定管理料	46,603,456																																	
支出	人件費	35,590,468																																	
	管理費	2,848,861																																	
	事務経費	1,937,847																																	
	その他経費	1,436,042																																	
	青少年事業資産取得支出	909,090																																	
	減価償却引当資産取得支出	40,492																																	
	第1回精算に伴う返納金	636,363																																	
	第2回精算に伴う返納金	3,000,000																																	
	合計	46,399,163																																	
	差引	204,293																																	

3 管理運営（事業執行）に対する全体的な評価

指定管理以前から委託事業者として子ども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わっていた経験を生かし、また、全市58施設の内55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、施設ごとに偏りの無いサービスの提供を行っており、区ごとの子ども文化センター合同行事の実施や全市規模の行事の実施を行っていた。行事の実施についても施設ごとに特色ある行事を実施していることは評価できる。また、各施設を統括する本部職員を配置することにより、他の子ども文化センターと連携を図り管理運営を行っていたことは評価できる。

55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、安定した経営を行っていたことは評価できる。

4 来年度の管理運営（事業執行）に対する指導事項等

次年度も引き続き55施設の指定管理者として安定した経営、他施設と連携した行事等スケールメリットを生かした管理運営を実施すること。事業の実施に当たっては運営協議会を始め地域と連携し、より一層地域の状況に合わせた特色ある行事の実施等を行うこと、また目標利用者数を設定する等具体的な数値目標を設定し客観的に事業の達成状況が分かるようにすること。